

## < もくじ >

1. 2023年 年頭の辞	1
2. 研究会合同イベント：シンポジウム開催のお知らせ	2
3. 研究会からのお知らせ	2
4. 研究会からの概要報告	3
5. 事務局からのお知らせとお願い	6

## 1. 2023年 年頭の辞

武漢の海鮮市場で新型コロナウイルスの集団感染が発生して以来、4度目の新年を迎えることになりました。100年前のスペイン風邪は収束までに3年かかったといわれますが、3年を過ぎてもコロナ禍はいっこうに収まる気配もありません。コロナと共に生きる時代がやってきたようです。

昨年2月24日、ロシア軍は「ロシア系住民の保護」を口実に、突如、ウクライナに侵攻しました。プーチン大統領は短期間でウクライナを制圧できると予想したようですが、意外にウクライナ軍は善戦し、年が明けても戦闘は続いています。ウクライナ軍に対しては、アメリカを中心に西側諸国からの武器供与に加えて、ロシアに対してエネルギー資源の輸入禁止や海外資産の凍結など厳しい経済制裁を発動しました。それに対する報復措置として、ロシアは石油、天然ガス、穀物の輸出を止めたため、世界的にエネルギー資源や食糧の不足をまねくことになりました。



当初、ロシア軍によるウクライナへの侵攻は、旧社会主義圏の内部における紛争のように見えました。しかし、超大国であるアメリカが乗り出すことによって、世界的な規模でその影響が広がるようになりました。日本でも、ロシアからのエネルギー資源が入ってこなくなった結果、電力不足の危機が叫ばれ、原発の再稼働、運転期間の延長、新設が取りざたされるようになりました。福島復興がまだ終わっていないのに、そして原発事故に対する対応ができていないというのに、原発に対するあまりにも無神経な政府の対応には、あきれるとともに、強い怒りがこみあげてきます。

隣国からの突然の侵攻に対する恐れは、防衛予算の倍増につながります。安全保障関連の3文書が閣議決定によって改定され、「専守防衛」だったはずの自衛隊は、「反撃能力」を行使できることになりました。「反撃能力」とは、日本が武力攻撃を受けていない状況でも、相手が攻撃してくるとみなせば、敵の基地にミサイルを撃ち込むことができるのです。「反撃能力」とは言葉のあやであって、実は「先制攻撃」といいでしょう。

第二次大戦で、あれほどの被害を被り、アジアの国々に絶大な被害を与えたにもかかわらず、再び日本は「戦争のできる国」に変貌しつつあります。戦争体験のない政治家たちは、隣国が攻め込んでくることへの恐怖心をあおっています。戦中戦後の体験を次の世代に伝え、二度と過ちを繰り返さないようにすることがシニア世代の責務ではないでしょうか。

2023年1月吉日 袖井孝子（一般社団法人シニア社会学会会長）

## 2. 第7回 研究会合同イベント：シンポジウム開催のお知らせ

今年度の「研究会合同イベント」は、新研究会発足を目指し「定年後の新しいキャリア人生についての可能性と展望を考える」をメインテーマに開催いたします。また、基調講演では、ソーシャルビジネスを立ち上げた想いと実践を通して、地域の方々のソーシャルの領域への参加に対する課題や想いをお話しいただく予定です。

■ 日 時：2023年3月25日（土） 14：00～16：00

■ 開催方法：Zoomによるオンライン開催

■ 参加費：1,000円

■ テーマ：「人生の第三期に広がる世界～新しいキャリアへの挑戦～」

■ プログラム

第1部 基調講演：治田友香（関内イノベーションイニシャティブ株式会社 社長）

第2部 パネルディスカッション：

司 会：袖井孝子（一般社団法人シニア社会学会 会長）

パネリスト：池口武志（一般社団法人定年後研究所 理事・所長、当学会会員）

小野晶子（独立行政法人労働政策研究・研修機構 主任研究員）

本田恭助（一般社団法人シニア社会学会 運営委員）

コメンテーター：治田友香（関内イノベーションイニシャティブ株式会社 社長）

※ 参加申し込み方法などは、決まり次第ホームページでお知らせいたします。

## 3. 研究会からのお知らせ

### (1) 第64回「災害と地域社会」研究会開催のお知らせ（再掲）

1) 日 時：2023年1月22日（日） 18：00～20：00

2) 開催方法：Zoomによるオンライン開催

3) 報告者：青山陽子（成蹊大学ほか非常勤講師、当学会会員）

米田衆介（明神下診療所院長）

4) テーマ：地域社会と防災：支援の手が届きやすくするための地域ネットワークづくりと災害時の障害者支援について

※ 参加ご希望の場合は、長田まで事前にご連絡ください（pfb00052@nifty.com）。

### (2) 第147回「社会保障」研究会開催のお知らせ（再掲）

1) 日 時：2023年1月25日（水） 18：00～20：00

2) 報告者：石崎浩二 三菱UFJ信託銀行 エグゼクティブアドバイザー

3) テーマ：「銀行員が本音で語るお金の哲学～増やすだけじゃない、もっと大切なことがある～」

4) Zoomでいたしますので、参加を希望される方は、阿部と小島にご連絡ください。

阿部富士子 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp 小島みさお kojima.misao01@gmail.com

※ ご質問がありましたら、阿部(旧姓佐藤)まで 090-4436-6853

### (3) 第84回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2023年1月26日（木） 15：00～18：00

2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室

3) テーマ：発表と討議 一各自が思う「シニア社会の問題意識について」

4) 参加費：300円

※お問い合わせは、島村（ken-sima1941@jcom.home.ne.jp）までお願い致します。

### (4) 第29回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

1) 日 時：2023年1月28日（土） 17：00～20：00

2) 場 所：荒川区町屋2-21-2 フレスコ町屋 201

3) 発表者：鈴木 眞澄及びその他 YNS やまぶき任意後見サポート会

#### 4) テーマ：認知症とともに生きる

びしょうざ  
劇団「B笑座」第15回。

「認知症とともに生きる」です。

認知症らしさを体験することで新たな発見が生まれます。

劇団員募集しています。Zoomの参加もできます

※ お問い合わせは、鈴木 眞澄 (mme\_masumi@yahoo.co.jp) 迄お願い致します。

#### (5) 第40回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2023年2月6日(月) 17:30~19:30

2) 場 所：Zoom 開催

3) テーマ：

①「もしバナゲーム」のご紹介：「もしもあなたが半年の余命だとしたら、人生の最後にどうありたいか。」在宅、緩和ケアの医師が、米国発の「Go Wish Game」を基に日本独自のルールを開発。ゲームを通じて、自分と他者の価値観を知り、新たな気付きを得る切っ掛けに。

②東洋経済 ONLINE で連載中(1~26)の日本とフランスの架け橋、国際ジャーナリストのドラ・トーザン氏の記事の中から、それぞれ関心のあるテーマを選んで感想を述べあいましょう。[ドラの視点の記事一覧 | 東洋経済オンライン | \(toyokeizai.net\)](http://toyokeizai.net)

4) ファシリテーター 中村昌子

※ ご連絡ご質問は、nakamurayoshiko6@gmail.com までお願いします。皆さまのご参加をお待ちしております。

#### (6) 第38回「社会情報」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2023年2月15日(水) 15:00~17:00

2) 場 所：Zoom 開催

3) 概 要：俱進会助成事業 報告書作成準備

※ 参加ご希望の場合は、前日までに森 moriyasu@ied.co.jp までご連絡ください。

## 4. 研究会からの概要報告

#### (1) 第37回「社会情報」研究会の報告

1) 日 時：2022年12月15日(木) 15:30~17:45

2) 場 所：Zoom 開催

3) テーマ：俱進会調査研究 インタビューデータ整理結果と分析

・報告書に向けて

2010年度報告書を参考に、今回報告書の目次構成と担当部分記載イメージを作成(八巻)

→各自の担当分を作成し、次回研究会で持参する

あざみ野と市川の地域の特徴を整理して記述。(あざみ野担当八巻、市川担当森)

・インタビューデータの整理・分析のレビュー

0-1 本人プロフィール(担当 森嵩)

家族構成に特徴がある。

今回の調査では、地域活動をしている人がほぼ100%、通常の調査では、4割程度

1-1 スマートフォン利用状況・使いこなし度(担当 八巻)

①各種機能を利用して、よかった・便利な点

②今後使用してみたい機能/何を期待するのか

パソコンとスマホの使い方タイプ分けできるのではないか

2-1 スマートフォンにおけるサービス利用で困難なこと(担当 富田)

2-2 スマートフォン利用時の支援者・支援方法(担当 富田)

①支援者について

あざみ野と市川の違い、コミュニティで違いがある  
家族の支援（配偶者、娘、息子）が支援の大きな力となる

②困った事の findings

スマホで新しいことをしようとする意識が少ない  
知らないから→もういい ということになる

3-1 スマートフォン利用時におけるリスク（担当 森）

3-2 加齢によるマイナスの影響、それへのサポート（担当 森）

4-1 新型コロナウイルスが与えた影響（担当 森）

①リスク経験があっても、不安感が大きいとは言えない

身近に信頼する支援者・相談相手（配偶者、娘、息子、婿）がいると、利用に対する不安感を感じない

②新型コロナウイルスが与えた影響で、外出が減って、スマホ利用（ZoomやLINE）が増える層と、変化のない層がある。（森 記）

## （2）第83回「シニア社会のリテラシー」研究会開催の報告

1) 日 時：2022年12月22日（木） 15:00~18:00

2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室

3) テーマ：「政府の借金は返さなくては行けないか」

4) 発表者：碓 正義

発表は参加者に事前に送付したレポートに沿って行われた。冒頭碓さんは、日本の財政の借金問題に関心を持ち学習して来たが、自分は専門家でもなく、他会で2回発表する機会があったが、理解してもらうことは難しかったと述べられた。パワーポイント用資料22枚に沿って発表されたが、キーポイントは下記の通り。(1) 政府の借金の総量は通貨の総量なので、マクロの視点では返済が多いと通貨の減少となり、デフレを招くこと。(2) ケルトン博士のMMT理論（現代貨幣理論）のロジックに見る様に、国の財政を家計に喩えるのは詐術であると考えられること。(3) 国の財政と家計は、国には貨幣発行権があり、家計にはないこと。(4) MMTの論者は、税金は通貨に対する需要を確保するために必要である。(5) 国債を発行する理由として、ケルトン博士は、国は貸倒れしない最も安心の組織であること。(6) お金は誰がどうやって作っているのかについては、お札は日本銀行が作っている。許可するのは国であるから、国が発行していると言える。お金（通貨）は現金通貨（貨幣及び日本銀行券）と預金通貨から成っている。出回っているお金の90%が預金通貨である。(7) お金は借りる人がいないと生まれまい。信用創造とは、民間銀行がお金を作り出す仕組みのこと。いま、お金を借りる人がいない。デフレは使わないで貯めておくことが理に適っている。デフレの時はお金が増えない。日本はバブル崩壊後30年続いている。(8) 信用貨幣論は、お金は負債である。一方商品貨幣論は、お金はモノである。(9) キーワードは、借金の総量である。財務省は財政破綻するということにより、自己防衛している。(10) 金融の量的緩和がデフレ脱却につながらなかった理由は、アベノミクスは失敗であった。デフレ脱却出来なかった。大胆な財政出動や消費税減税などが必要だった。(11) 国債発行は言い換えれば通貨の供給、従って国債発行は財政政策と同時に金融政策でもある。(12) デフレの時に通貨を供給出来るのは政府しかない。(13) 国債の発行は、民間金融資産が底をつくまではという考えは間違いである。(14) 大事なことは、予算の使い道をしっかり監視すること。軍備増強に国債発行は問題。積極財政は、国民の生活を豊かにするためになければならない。と述べられた。

発表の後、質疑応答・意見交換が交わされた。

濱口座長はコメントとして、社会学的な観点から、貨幣の蓄積、交換、信用の3つの機能のウエート付けについて解説された。そして、今後貨幣の動きは、グローバリズムの中での貨幣の動きに注目して行く必要があるのではと述べられた。（島村 記）

### (3) 第28回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催の報告

- 1) 日 時：2022年12月24日(土) 17:00~20:00
- 2) 場 所：荒川区町屋2-21-2 フレスコ町屋 201
- 3) 発表者：鈴木 眞澄及び会員(YNS やまぶき任意後見サポート会)
- 4) テーマ：認知症を楽しく過ごすには

びしょうざ  
劇団「B笑座」第14回。

クリスマス会も兼ね、「人形劇」も混ぜて、楽しく寸劇を行いました。Zoom参加者も増えました。今後に活かしたいと思います。

### (4) 第39回「ライフプロデュース」研究会の報告

- 1) 日 時：2023年1月10日(火) 17:30~19:30
- 2) 報告者：柴本淑子
- 3) タイトル：「ゴーストライターの仕事ってどんなもの？」
- 4) 場 所：Zoom 開催

冒頭、年頭に当たって「今年目標にする漢字(一文字)」を各自発表。「笑」、「跳」、「颯」、「飛」、「繫」、「学」、「実」など、新年にふさわしく意欲に満ちたものが披露された。今年も全員元気で、おらかな気持ちで過ごしたいものである。

テーマ「ゴーストライターの仕事とは」。会員の柴本は本業のほかにゴーストライターとして、長く著名人の単行本制作に関わってきた。俳優、タレント、政治家などの本を、本人にインタビューして「本人が書いたように」仕上げる仕事である。仕事内容はまず本人の最近の動向をくまなく調べる→質問票をつくる→インタビュー→音声データから文字起こし→読者がわかるような肉付けをして文章にする→細かいデータや資料に当たって、正確な内容にする→200~300ページ分位を書き上げ入稿。本人はグーでチェックし、本が仕上がる。大切なのは、本人がどんな気持ちでその言葉を発したかをいち早く察知すること。1冊書くと本人の人間性がうっすらと見えてくる。ゴーストライターの魅力の一つは、そんな“著者”の姿が見られることである。

質疑応答・感想「ギャラはどうなっているのか」(10%位の印税だったり、原稿料としてまとめてもらう場合がある。今は本がなかなか売れないので原稿料としてもらったほうがいい)。「とても大変な仕事なのにこなせるのはなぜか」(雑誌の編集部においてインタビューには慣れていたせいだと思う)。「手ごわい“著者”はいたか」(出版社は年齢だったり、関係性だったりを見極めて私が書くのにふさわしい仕事を依頼してくる。だから“著者”に手を焼いたことはない)。あまり知られない仕事の紹介だったせいか、時間いっぱいいろいろな質問や感想が飛び交った。

(柴本淑子 記)

## 5. 事務局からのお知らせとお願い

### < 会員情報変更時のご連絡のお願い >

コロナ禍中、各種ご連絡を e メールや郵送で行うことが多くなっております。会員情報（氏名・住所・e メールアドレス等）に変更が生じた場合は、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。当面、電話による連絡はご遠慮いただいております。シニア社会学会事務局あて連絡は、e メール：[jaas@circus.ocn.ne.jp](mailto:jaas@circus.ocn.ne.jp) 又は郵送いずれかの方法にてお知らせください。

### < 2023年2月 JAAS News の発行日 >

次回 JAAS News 第 282 号の発行日は、2023 年 2 月 15 日（水）です。原稿をお寄せ下さる方は、2 月 8 日（水）までに、学会宛の e メール添付にてお願いいたします。

シニア社会学会 事務局一同

一般社団法人 シニア社会学会・事務局  
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21  
ちよだプラットフォームスクウェア1037  
e メール：[jaas@circus.ocn.ne.jp](mailto:jaas@circus.ocn.ne.jp) URL：<http://www.jaas.jp/>